

平成22年度

高鍋町外部評価委員会

答 申

平成23年3月

高鍋町外部評価委員会

目 次

1. 高鍋町外部評価委員会とは	1
2. 外部評価委員会委員名簿	1
3. 平成22年度高鍋町外部評価委員会による評価実施概要 . . .	1
4. 評価対象の事務事業	2
5. 高鍋町外部評価委員会の開催日時	3
6. 評価結果の概要	4～9
7. 今後の課題と改善への提言及び要望	10～11

1. 高鍋町外部評価委員会とは

各課が実施した事務事業評価（内部による1次評価）の結果について、評価の客観性・公平性・信頼性を高めるために、第三者評価機関として外部評価委員会を設置し、評価を行う。ただし、その事業の継続や廃止、休止等の判断ではなく、町の内部評価に対する外部からの客観的評価と位置づける。

2. 外部評価委員会委員名簿

外部評価委員会は、下記の4名（学識経験者2名、公募委員2名）で構成されている。

【高鍋町外部評価委員会委員】

役職	氏名		任期
委員長	入谷 貴夫	学識経験者：宮崎大学教育文化学部教授	平成21年9月14日～ 平成23年9月13日
委員	柚原 知明	学識経験者：宮崎産業経営大学経営学部教授	平成21年9月14日～ 平成23年9月13日
委員	田中 宏昌	公募委員	平成21年9月14日～ 平成23年9月13日
委員	徳丸 拓郎	公募委員	平成22年12月7日～ 平成24年12月6日

※なお、前年度より委員を務めていただいていた上村スミ子委員につきましては、任期途中でありましたが、町外に転出されたため、平成23年1月11日をもって委員を辞することになりました。

3. 平成22年度 高鍋町外部評価委員会による評価実施概要

◎ 対象年度：平成21年度継続事業

◎ 対象数：事務事業6件

第1回外部評価委員会において、委員5名（事業選定時には上村委員も在任だったため）が、21年度評価事務事業109事業から選択

◎ 評価手順：

(ア) 事前に、選定された事務事業の評価表と参考資料を事務局から配布する。

(イ) 各担当職員が評価表に沿った説明を行う。さらに参考資料を用いて詳細を説明の後（15分程度）、質疑応答（20分～25分）を行う。

(ウ) 外部評価シートへの記入を基に、委員会としての評価判定及び意見の集約を行う。

4. 評価対象の事務事業

No.	事務事業名	担当課
1	職員研修事業	総務課
2	ふるさと水と土保全事業	産業振興課
3	人工血液透析患者通院交通費助成事業	健康福祉課
4	ファミリーサポートセンター事業	健康福祉課
5	公共下水道事業（建設事業）	上下水道課
6	町指定史跡「秋月墓地」及びその周辺維持管理事業	社会教育課

5. 高鍋町外部評価委員会の開催日時

平成22年度は外部評価委員会を4回開催し、6事業について審議。

その他、新公募委員への外部評価概要説明会及び町長への答申を行う。

委員会	日時	審議内容等	会場
第1回	平成22年12月7日(火) 15:00~15:30	①事業選定 ②昨年度の外部評価対象事業の実施状況報告	第3会議室
第2回	平成23年1月18日(火) 15:00~17:00	①事業評価(2事業) ・職員研修事業 ・ふるさと水と土保全事業	第3会議室
第3回	平成23年2月7日(月) 13:30~16:30	①事業評価(2事業) ・人工血液透析患者通院交通費助成事業 ・ファミリーサポートセンター事業 ②椎葉村行政評価委員会委員との意見交換	第1会議室
第4回	平成23年2月8日(火) 15:00~17:00	①事業評価(2事業) ・公共下水道事業(建設事業) ・町指定史跡「秋月墓地」及びその周辺維持管理事業	第3会議室

※第2回委員会は、入谷委員長が所用のため欠席。各委員に事前に連絡をし、柚原委員長代理のもと委員3名にて開催する。

※第4回委員会は、田中委員が急用のため欠席。委員3名にて開催する。

【その他】

日時	内容	会場
平成22年10月26日(火) 8:30~9:00	新公募委員への外部評価概要説明会	応接室
平成23年3月2日(水) 10:00~10:30	町長への答申	町長室

6. 評価結果の概要

担当課による1次評価（内部評価）をふまえ、外部評価委員会では、その事業の目的及び妥当性や有効性を勘案して評価を行った。その結果については、以下のとおりである。

ただし、評価判定については、事業の方向性や改善点等にも様々な捉え方があるため、提言・提案の形で委員会の意見を集約した。

1	職員研修事業		評価判定	
			拡充	
方向性に関する提言	事業の実施	◎今後、職員数の減少は避けられず、その中で各人のスキルアップ・モラルアップは絶対条件であるため、今より更に事業内容の拡充が図られるべきである。 ◎全職員が研修にすすんで参加し、勉強する場が拡がればよいと思う。	1次評価 現状維持	外部評価 拡充
	コスト	◎低コストで高い研修効果を挙げていくよう、更なる工夫が必要である。そのためには自己啓発の動機付けを重視していただきたい。 ◎職員数も少なくなってきたおり、各人のスキルアップがさらに必要となってくるため、予算組みをしっかりと行い、最少コストで最大の成果を得てほしい。	1次評価 現状維持	外部評価 拡充
改善点等の提案	◎事業内容の拡充のみならず、コストについても可能な範囲での拡充を検討すべきである。特に職場外研修に対する拡充の必要性を感じる。 ◎人事については、一般の職員に対する透明性・納得性、および育成の観点から上司と部下による面談を踏まえた結果の本人への説明と開示を願いたい。 ◎研修の効果があったものについては、正しい人事評価につながるようにしていただきたい。それが結果的にモラルアップにもつながっていくと思う。			

2	ふるさと水と土保全事業		評価判定	
			現状維持	
方向性に関する提言	事業の実施	<p>◎国・県・町の補助で行う農地・水環境保全協議会があるので、農業振興地域の維持管理はほぼまかなえている現状がある。改修地域の活動等を見れば、縮小できる可能性があると思う。</p> <p>◎一般財源からの繰入の増額や、県からの交付税の拡充などにより、事業内容の拡充を検討していただきたい。</p>	1次評価	外部評価
			現状維持	拡充・現状維持・縮小同数
	コスト	<p>◎コスト面の問題よりも、むしろ事業資金をどう作っていくかが問題である。施設の管理、土地改良区の活用など自主運用の方向を検討してはどうか。</p> <p>◎事業面と同様に、国・県・町の補助で行う農地・水環境保全協議会があるので、農業振興地域の維持管理はほぼまかなえている現状であり、改修地域の活動等を見れば、縮小できる可能性があると思う。</p>	1次評価	外部評価
			現状維持	現状維持
改善点等の提案	<p>◎未加入の地域に対して、環境保全協議会に加入するよう各水利組合に勧めれば、コストは多少カットできないか。</p> <p>◎現状別の補助事業の活用は出来ないか。また、この事業は、基金積立の利息分と町からの持ち出し分で行っている事業であるが、必要に応じてその都度、基金の取り崩しも必要な場合があるのではないか。</p> <p>◎今後については、本事業に関わる農業用施設の状況を鑑みながら、農家の方々との協働活動を推進していただきたい。</p>			

3	人工血液透析患者通院交通費助成事業		評価判定	
			拡充・現状維持・縮小・廃止同数	
方向性に関する提言	事業の実施	<p>◎他の重度障害者に対しても、応分の負担があつてよいと思う。</p> <p>◎平成24年度廃止に向けた検討がなされているようであるが、その理由は制度導入時の目的に照らして判断されるべきではないか。</p> <p>◎今後は通院に関わる他の病気も含めて、十分な議論をしていただきたい。町民や議会からの提言によって簡単に事業の廃止をするようでは、十分な議論を経ての導入であつたとは言えない。</p> <p>◎町民への公平性を考えると、1次評価と同様に「廃止」という方向を考える。</p>	1次評価	外部評価
	コスト	<p>◎高齢者の医療費の自己負担は、今後も増加していくことが予想されるので、この事業についても財政の許す限りの範囲でのコスト増は覚悟していくべきと思う。</p> <p>◎平成20年度に制度改正をしてコストの削減が図られていることから、これ以上の削減は難しいのではないか。</p> <p>◎交通費の負担軽減を目的とするのであれば、タクシー利用を鑑みた場合、限度額を上げる必要がある。十分な検討が必要である。</p>	1次評価	外部評価
改善点等の提案	<p>◎他の障害者との不均衡があれば、他の障害者補助という選択もありうるが、そうした方向について支出削減という理由以外で考える必要があるのではないか。</p> <p>◎交通弱者は必ずしも通院に関わる高齢障害者だけではない。一人暮らしの老人、重度障害者をもつ老人においては、買い物、役場手続き、銀行・郵便局等の手続きも大きな経済的負担となる。個人負担と町の負担についての十分な議論が必要と考える。</p> <p>◎「交通弱者対策として総合的な検討」とあるが、交通弱者と認定する判断基準をしっかりと作らないと難しいのではないか。</p> <p>◎ほかの町民の方から不平等感を指摘されて、不均衡を是正するために「廃止」というのはどうかと思う。</p> <p>◎今後は町民の健康管理を重視する施策が大切であると考え。 (疾病以前に、健康管理に関する運動面・食事面での保健指導に重点をおく等)</p>			

4	ファミリーサポートセンター事業		評価判定	
			現状維持	
方向性に関する提言	事業の実施	<p>◎今後はPR等によって利用件数の向上を図ってほしい。</p> <p>◎現状を維持しながら利用実績を検討した上で、今後、拡充の方向性を持つべきである。</p> <p>◎お助け会員数を増員したほうがよいのではないか。</p> <p>◎利用状況が費用に比べて少なすぎると思う。他の市町村の場合はどうなのか、県内の利用状況を知りたい。高鍋町だけではないのかもしれない。</p>	1次評価	外部評価
	コスト	<p>◎委託料における賃金（人件費）については、常時勤務の必要性があるが、かなり余裕のある勤務実態と思われる。利用実績を踏まえた監視機能が必要かと思う。</p> <p>◎年間委託料145万円に対して、平成22年度の利用実績が32件なので1件あたり45,000円である。コスト的に見合っていないのではないか。今後利用増につながればよいと思う。</p> <p>◎事務局の賃金が利用数に対して多い。</p> <p>◎委託料なので利用に応じて支出するものではないということで、現状維持とした。</p>	1次評価	外部評価
改善点等の提案	<p>◎現状で改善点は特に見当たらない。</p> <p>◎平成22年度からは、利用金額について300円の助成を行ったり、広報等を行うことによって、利用しやすくなると思うが、同時に、安価な利用金額で預けられるため、簡単に親が子供との時間を失うことになる。育児放棄等社会問題も多い中、会員の調査を行うことと、子供の家庭環境も考えて育児の方にも力を入れて頑張ってもらいたい。</p>			

5	公共下水道事業（建設事業）		評価判定	
			現状維持	
方向性に関する提言	事業の実施	<p>◎水洗化率が約75%であり、衛生、水質改善等の観点からも事業推進の拡充を図っていただきたい。</p> <p>◎平成27年度以降の計画において、合併処理浄化槽との関連を含めて総合的な計画を作ることが大切となるのではないか。</p> <p>◎現状通りに下水管が普及していくように努めていただきたい。</p>	1次評価	外部評価
	コスト	<p>◎事業計画の遅れの主原因が、財政上の問題とのことであったが、町の重要なインフラ整備であり、財政支出の優先度を上げた早急な完遂を目指すべきと考える。</p> <p>◎町の財政状況との関連で進めざるを得ないと思われるが、できるだけ早く普及率を高めていくことを望む。</p> <p>◎平成22年度完了予定事業が財政状況等により計画が延長となったということであるが、残りの18%位（認可区域面積内）を早く済ませるよう努めていただきたい。</p>	1次評価	外部評価
改善点等の提案	<p>◎普及率が前年度より減っているのは整備区域内の住民が減ったことも要因の一つと考えられる、ということであった。現在、下水設置済みのアパートで空室が目立つようなので、企業誘致など他の課とも一緒に人口を増やすことを考え、普及率を上げてほしい。</p>			

6	町指定史跡「秋月墓地」及びその周辺維持管理事業		評価判定	
			現状維持	
方向性に関する提言	事業の実施	<p>◎藩の特徴を知ることは、現代の教育や町づくりに最も求められるものと思われる。「存じ寄り」という思想の深い意味を子供の総合学習に活用できないか。</p> <p>◎高鍋町の貴重な文化財として、維持管理を継承していただきたい。</p> <p>◎小中高校生の課外授業等で地域歴史の勉強をしたり、清掃等を行なったりすることで、この事業がもっと充実して欲しい。</p>	1次評価	外部評価
			現状維持	拡充
改善点等の提案	コスト	<p>◎町民が興味を持って歴史に接し、清掃活動等に参加できるようになれば、コストは縮小できる可能性もあると思う。</p>	1次評価	外部評価
			現状維持	現状維持
改善点等の提案	<p>◎小中学生や高校生に地域歴史の勉強をしてほしい。その場を提供できるようになればいいと思う。</p> <p>◎今後は高鍋町の貴重な文化財としての維持管理のみならず、その歴史的意義や背景についても継承していただきたい。</p>			

7. 今後の課題と改善への提言及び要望

(ア) 評価の対象とする事務事業について

◎公共下水道事業（建設事業）については昨年度も対象事業となっていたので、できれば連続して選択しないほうがよかった。

◎委員会においては十分な検討と審議を経ての事業の選考をおこなった。次年度以降は、もう少し対象事務事業を増やしてもよいと思う（10事務事業程度）

(イ) 評価表及び補足資料について

◎評価表の作成について、可能な限り丁寧に書いてもらいたい。これを読めば、部外者でも大体のことがわかるというレベルを目指してもらいたい。

◎補足資料については、今回は少し足りなかったように思う。できれば前もって紙ベースで受け取りたい。

◎地図、カラー写真等のわかり易い資料を準備していただいた。

◎財政支出については、過去5～10年程度のトレンドや傾向が把握できる資料があると良かったと思う。また、当該事務事業に関わる他の費用支出についても一元的に把握できる資料を要望する。

◎評価シート内に、担当者が感じるその事業に対する問題点を記入する欄があるとよいと思う。

(ウ) ヒアリング時における職員の対応について（説明能力等）

◎評価表を中心に事業内容をおり込みながら、部外者に分かるように説明してもらいたい。相手を小学生だと思って、小学生にもわかるような説明をする気持ちで説明してもらいたい。

◎各課の職員の方々には、十分に誠実でわかり易い説明や回答をいただいた。

(エ) その他

※委員会開催時期について

◎口蹄疫の関係で、外部評価委員会の開催時期が遅れたのは止むを得ないことであった。

◎日程調整については、一般公募の町民の方の声をひろってもらいたい。

◎委員会開催については、短時間、多日数（週1回、1日1事業、1時間程度）のほうが仕事と両立できる。また、夕方や夜からの開会であると参加しやすい。

※委員会の進行等について

◎質疑応答や評価シートへの記入の時間が足りないように感じる。それぞれの時間をさらに延ばしたり、評価シートを持ち帰ってから記入するなどの工夫はできないか。

◎委員会としては、もう少しリラックスした雰囲気作りが必要かと感じた。

※委員数について

◎町民からの公募委員数を5～6名程度選出していただきたい。本委員会は町民の民意を反映できる場にならないと意味がない。募集方法等についてご検討いただきたい。

◎いろいろな分野（農業・商業・工業・サラリーマン・主婦等）から公募委員を選出するのも良いと思う。

※報道について

◎マスコミとの良好な関係を作るように心がけてもらいたい。新聞報道は助かる面もあるが、町長の知らない段階で先に記事に出てしまうこともよくないので、そのあたりのバランスをよく考えて対応していただきたい。